

# 上勝町地域創生人口ビジョン

令和7年4月

徳島県上勝町

# 上勝町地域創生人口ビジョン

1. はじめに
2. 「人口ビジョンの」位置づけ
3. 「人口ビジョンの対象期間」

## (目次)

I. 人口問題に対する基本認識	1
1. 住民との認識の共有が最も重要	1
2. 「人口減少」の状況と影響	2
(1) 町の人口減少は引き続き、深刻化している。	
(2) 自然増減・社会増減・人口増減の推移	
(3) 人口の社会増減－人口移動	
(4) 人口減少の進行は、地域経済社会に甚大な影響を与え、町の存続にかかわる。	
II. 今後の基本的視点	10
1. 人口減少問題に取り組む積極的な姿勢	10
2. 今後の基本的視点	10
(1) 4つの基本的視点からの取組み	
(2) まち・ひと・しごとの創生と総合戦略	
III. 目指すべき将来の方向性	11
1. いっきゅうと彩の里・かみかつ	16
2. 2040年に「1,000人」の人口確保を目指す	16
(1) 転入を増やし転出を減らす「社会増」を進める。	

## 1. はじめに

上勝町では、平成27年9月に、「上勝町地域創生人口ビジョン（以下「上勝町人口ビジョン」という。）」及び「上勝町地域創生総合戦略（以下「上勝町総合戦略」という。）」を策定し、人口減少の克服と持続可能な美しいまちづくりのため、上勝町独自の取組みを展開してきた。

第1期、第2期「上勝町総合戦略」に基づく取組み等により、転出者の減少、移住者の増加により社会増が見受けられるなど一定の成果はあったものの、少子高齢化が進む本町では、依然「人口減少」は厳しい状況が続いている。

この度、令和7年度から令和11年度までの5年間を計画期間とする第3期「上勝町総合戦略」の策定・取組推進に当たり、最新の人口動態に関する統計データに基づく分析や、第2期「上勝町総合戦略」の取組成果の検証を行った上で、今後上勝町が目指すべき方向性を示した新たな「上勝町人口ビジョン」を策定するものである。

## 2. 「人口ビジョン」の位置づけ

町では「まち・ひと・しごと創生法」に基づき、国の「まち・ひと・しごと創生総合戦略（以下「総合戦略」という。）」及び県の「総合戦略」を勘案の上、本町の「上勝町総合戦略」を策定することとされている。

「上勝町人口ビジョン」は、「上勝町総合戦略」の策定に当たり、本町の人口の現状を分析・検証した上で、住民と人口減少問題に関する認識を共有するとともに、「今後の目指すべき方向性」と「将来人口の展望」を提示するものである。

## 3. 「人口ビジョンの対象期間」

「上勝町人口ビジョン」の対象期間は、第1期、第2期「上勝町人口ビジョン」と同様に、2040年（令和22年）までとする。

# I. 人口問題に対する基本認識

## 1. 住民との認識の共有が最も重要

日本は「人口減少時代」に突入し、2008年に始まった人口減少は今後加速度的に進むと推計されている。国の長期ビジョンが指摘するように、人口減少がこのまま続けば、将来的には経済規模や生活サービスの更なる縮小・低下を招きかねない。このため、国全体の人口の現状と将来の姿と併せ、町の人口の現状と将来の姿についても、まずは、住民と認識を共有し、国・県・近隣市町村と力をあわせて取り組んでいくことが何よりも重要である。そこで、町の人口の現状と将来の姿を提示する。

## 2. 「人口減少」の状況と影響

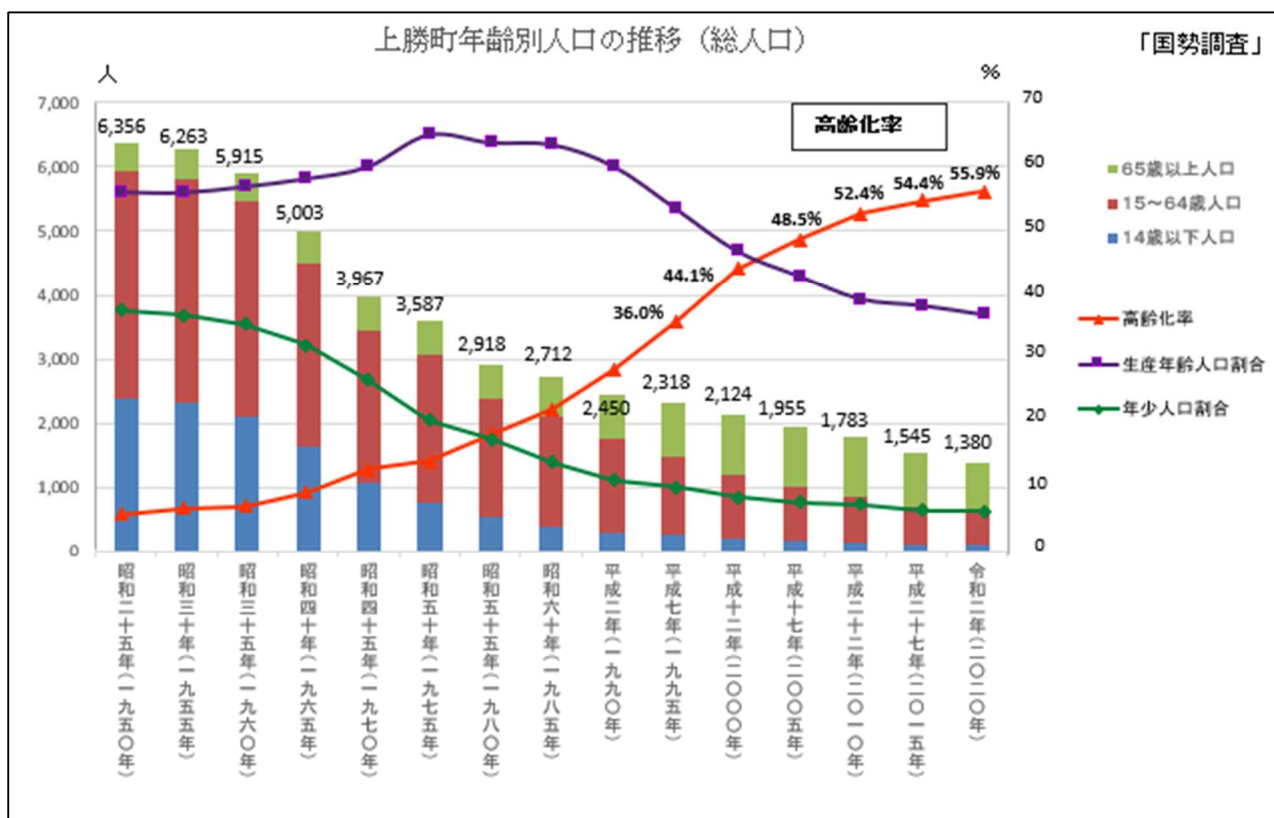


図1. 上勝町年齢別人口の推移

(1) 町の人口減少は引き続き、深刻化している。

日本の総人口は2008年以降、減少局面に入り、国立社会保障・人口問題研究所（以下「社人研」という。）によると2070年には8,700万人にまで減少すると推計されている。

町の人口は、1950年（昭和25年）の6,356人をピークに減少し、2020年（令和2年）は1,380人となっている。社人研の推計では、今後も減少傾向が続き、2050年（令和32年）には、664人にまで減少するとされている。

2020（令和2）年の国勢調査における生産年齢人口（15～64歳）は511人で、社人研の推計では今後も減少傾向が続き2050（令和32）年には258人にまで減少する見込みである。

年少人口（0～14歳）についても、2020（令和2）年の国勢調査における人口は97人で、生産年齢人口と同様に減少傾向が続き、2050（令和32）年には64人にまで減少するとされている。

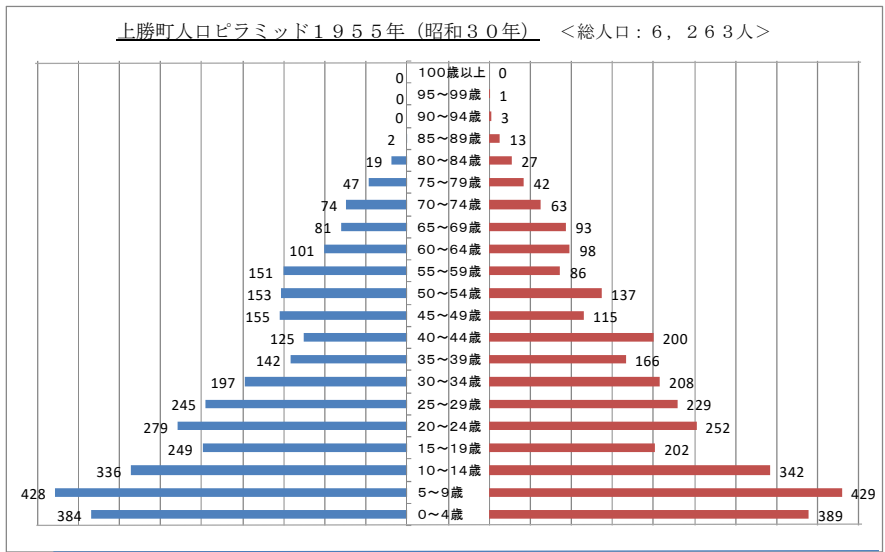


図2-1. 上勝町人口ピラミッド1955年(国勢調査)

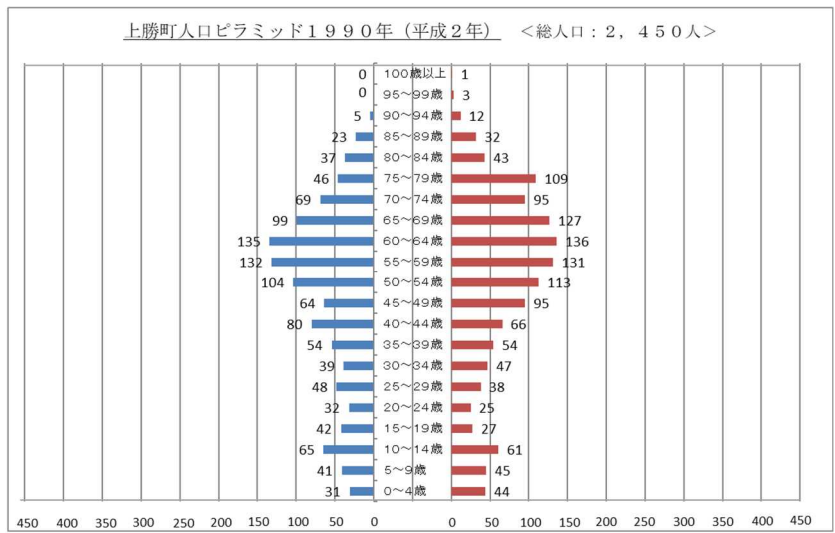


図2-2. 上勝町人口ピラミッド1990年(国勢調査)

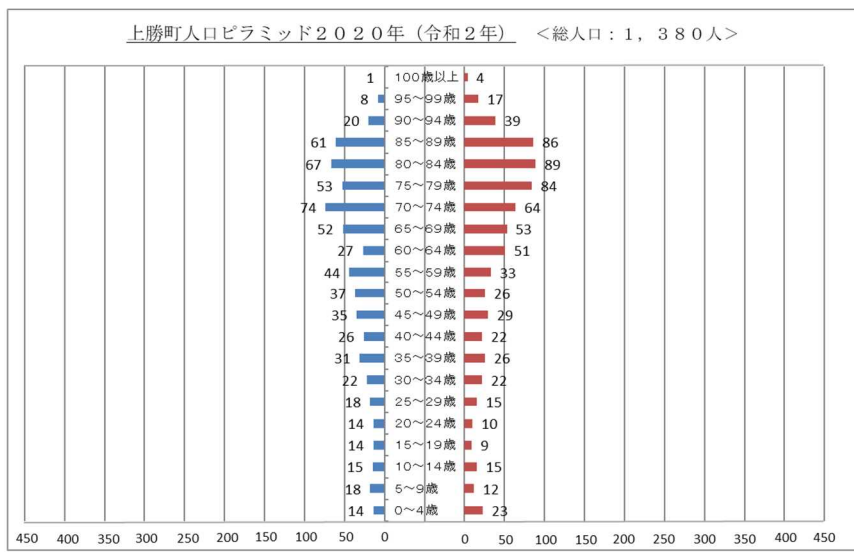


図2-3. 上勝町人口ピラミッド2020年(国勢調査)

(2) 自然増減・社会増減・人口増減の推移

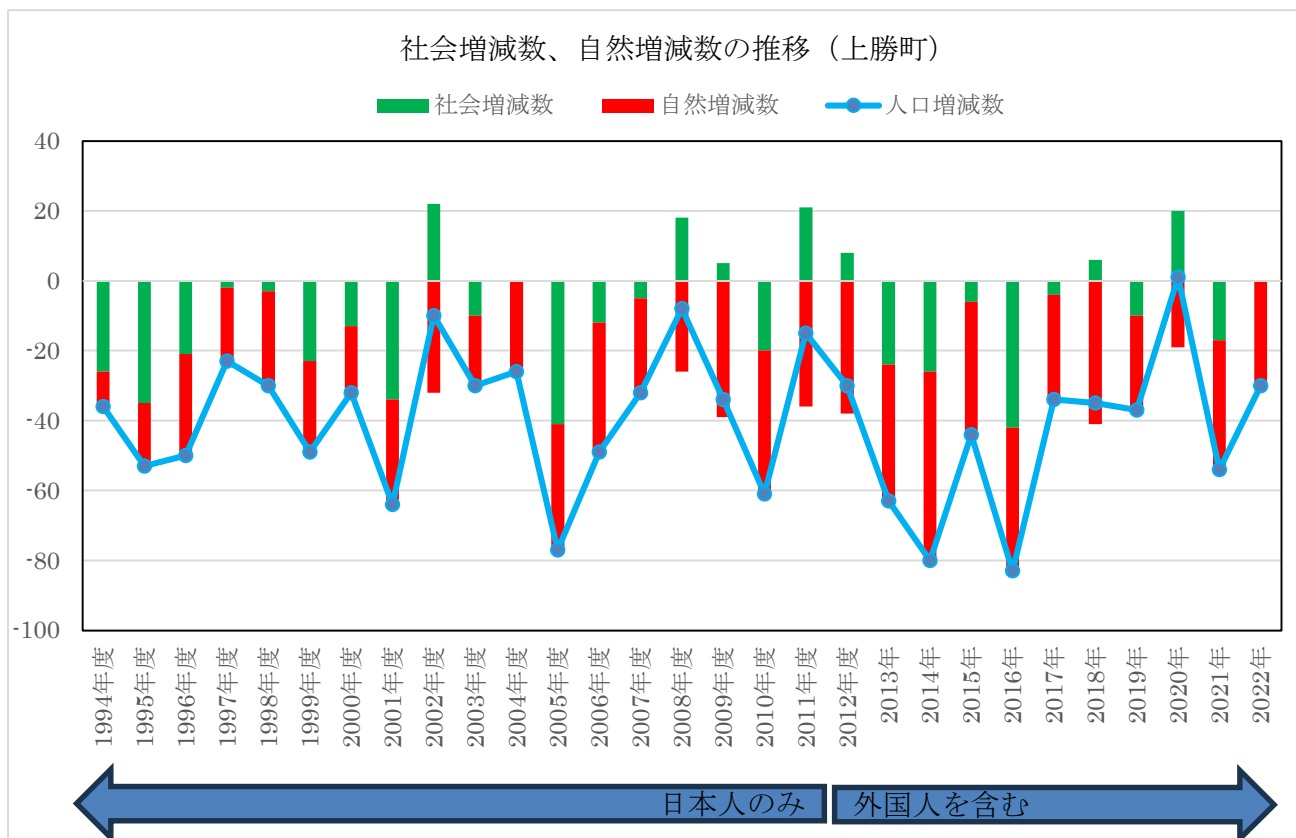


図3. 社会増減数、自然増減数の推移 (上勝町)

資料：総務省自治行政局「住民基本台帳に基づく人口、人口動態及び世帯数」により作成

2012年度以前は4月1日から3月31日までの間、2013年以降は1月1日から12月31日までの間の人口動態

2011年度までは日本人のみ、2012年度以降は外国人を含む数字。

自然増減数は、調査期間中における、出生者数から死亡者数を減じた数

社会増減数は、調査期間中における、転入者数及びその他記載数の合計から転出者数及びその他消除数の合計を減じた数

上勝町	1994年度	1995年度	1996年度	1997年度	1998年度	1999年度	2000年度	2001年度
	(H6)	(H7)	(H8)	(H9)	(H10)	(H11)	(H12)	(H13)
人口増減数	-36	-53	-50	-23	-30	-49	-32	-64
社会増減数	-26	-35	-21	-2	-3	-23	-13	-34
自然増減数	-10	-18	-29	-21	-27	-26	-19	-30

上勝町	2002年度	2003年度	2004年度	2005年度	2006年度	2007年度	2008年度	2009年度
	(H14)	(H15)	(H16)	(H17)	(H18)	(H19)	(H20)	(H21)
人口増減数	-10	-30	-26	-77	-49	-32	-8	-34
社会増減数	22	-10	0	-41	-12	-5	18	5
自然増減数	-32	-20	-26	-36	-37	-27	-26	-39

上勝町	2010年度	2011年度	2012年度	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年
	(H22)	(H23)	(H24)	(H25)	(H26)	(H27)	(H28)	(H29)
人口増減数	-61	-15	-30	-63	-80	-44	-83	-34
社会増減数	-20	21	8	-24	-26	-6	-42	-4
自然増減数	-41	-36	-38	-39	-54	-38	-41	-30

上勝町	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年
	(H30)	(R1)	(R2)	(R3)	(R4)
人口増減数	-35	-37	1	-54	-30
社会増減数	6	-10	20	-17	0
自然増減数	-41	-27	-19	-37	-30

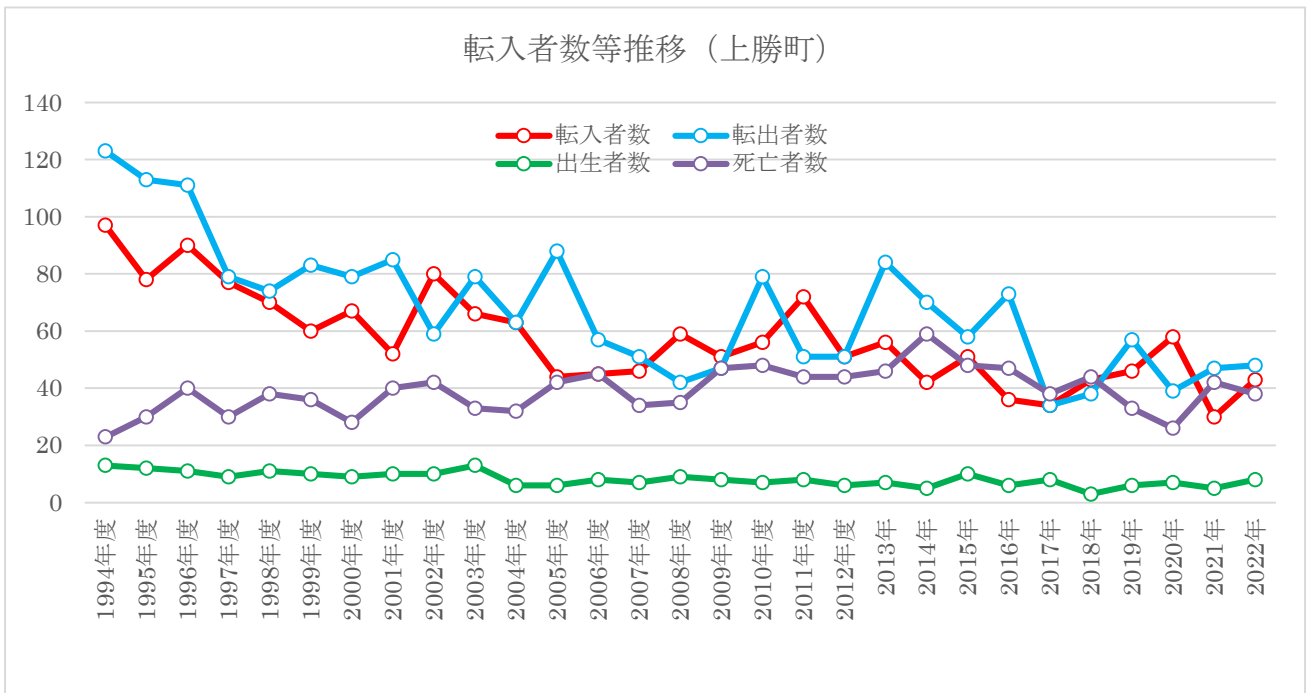


図4. 転入者数、転出者数、出生者数、死亡者数の推移（上勝町）（日本人住民）

社会増減の推移については、総務省自治行政局「住民基本台帳に基づく人口、人口動態及び世帯数」によると、転出が転入を上回る「転出超過」の状況の中、2002年度、2008年度、2009年度、2011年度、2012年度、2018年、2020年は転入が転出を上回り社会増となっている。

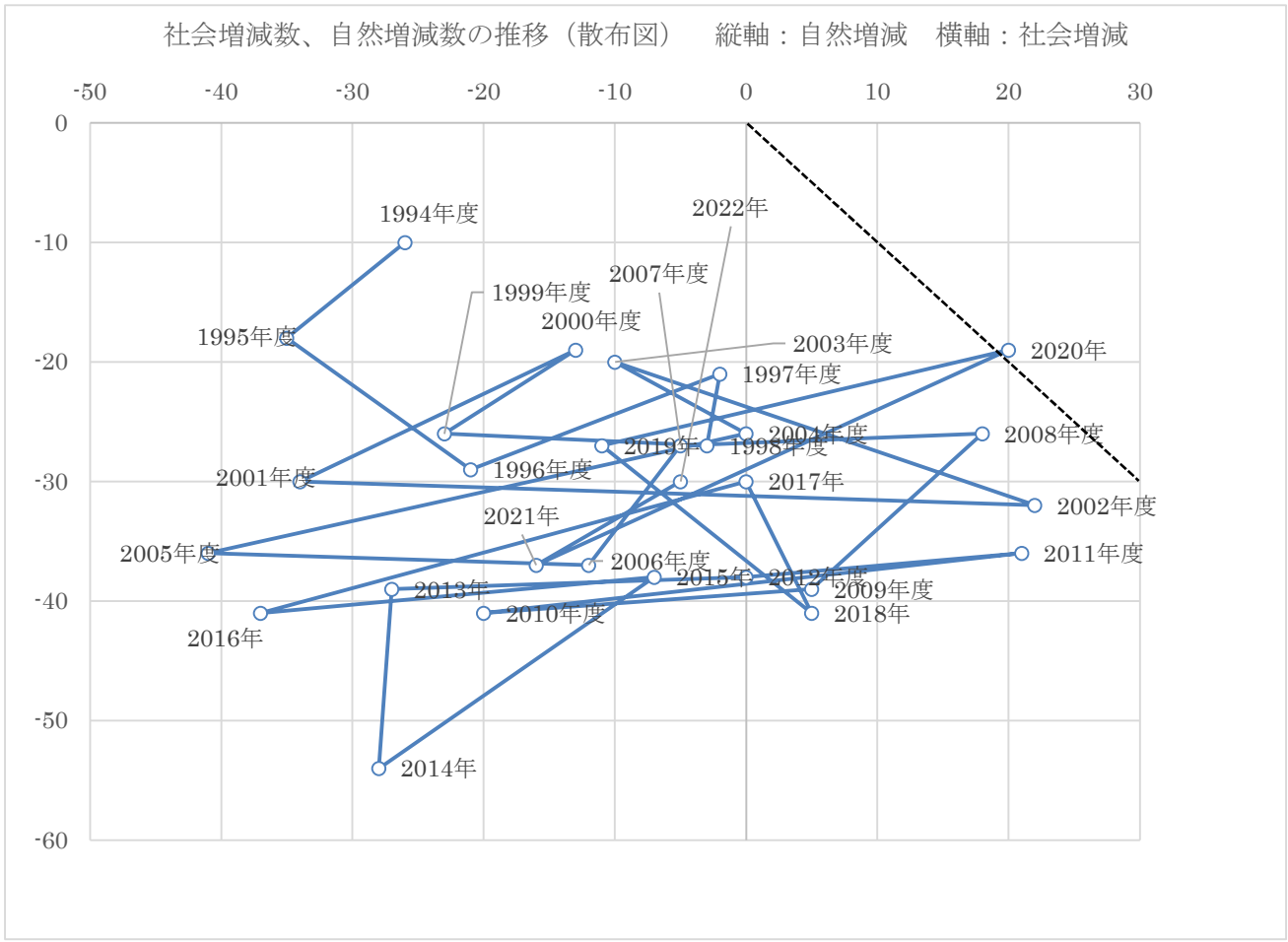
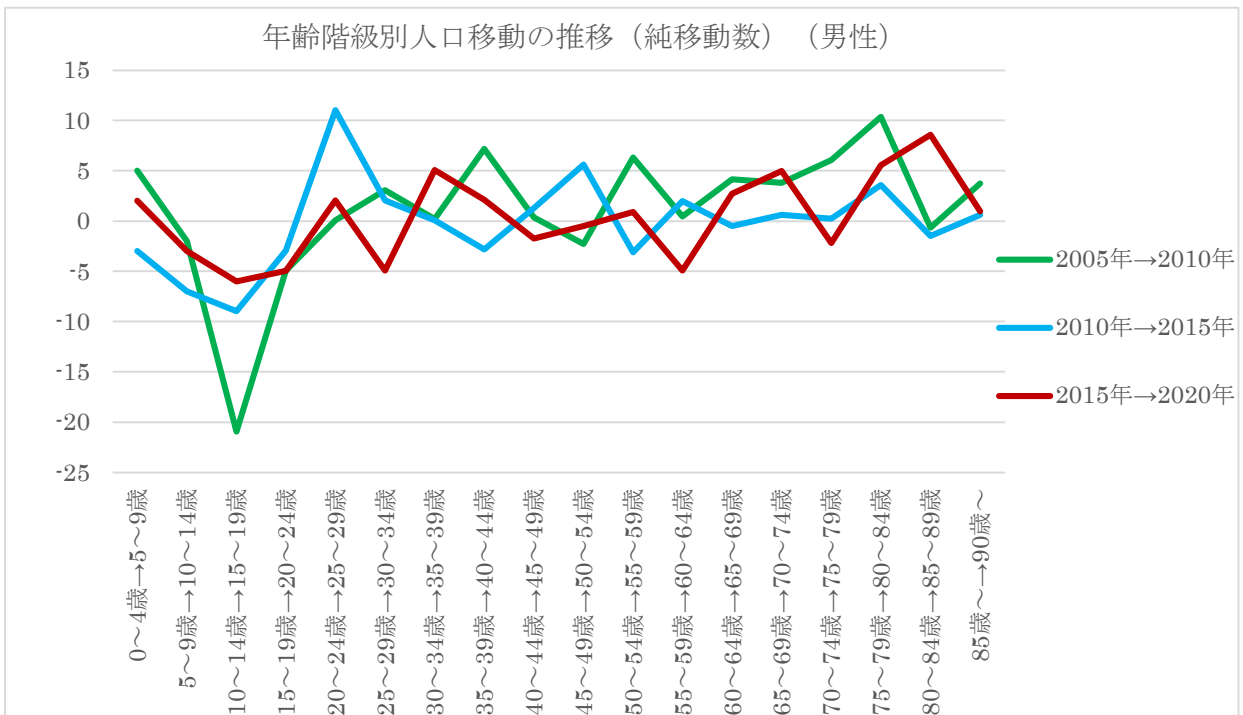


図5. 社会増減数、自然増減数の推移（散布図）（上勝町）（日本人住民）

(3) 人口の社会増減—人口移動





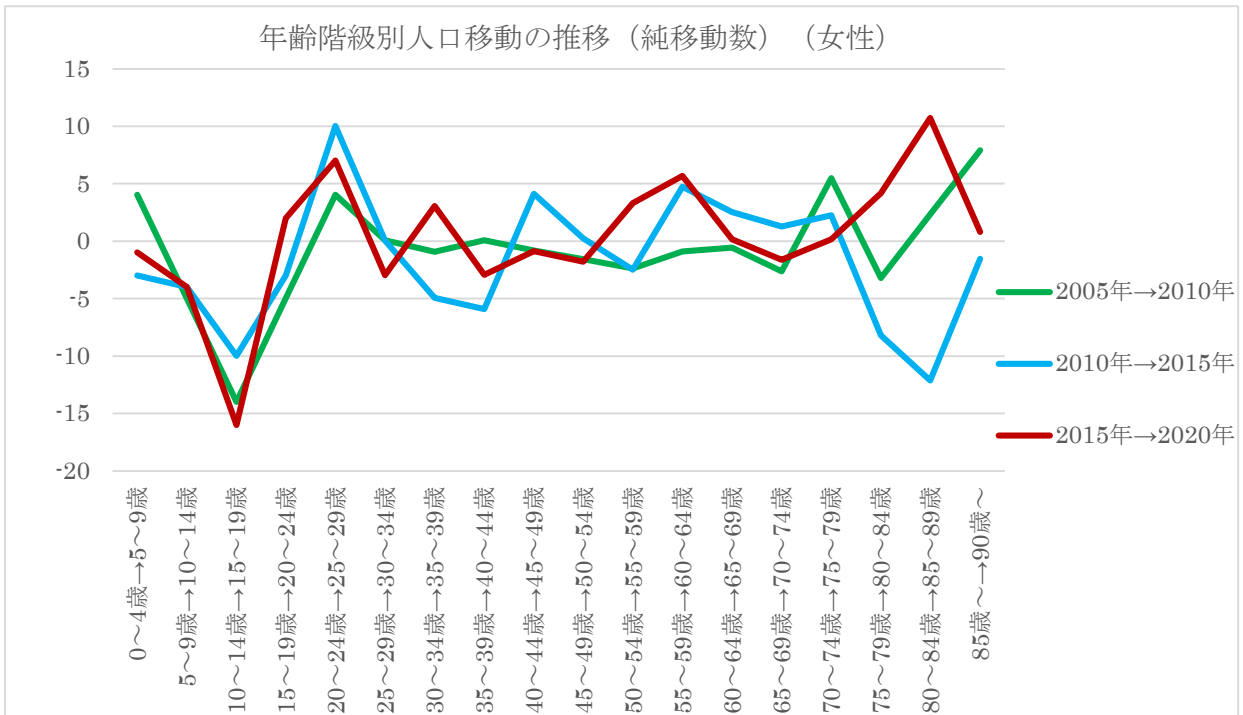


図6．年齢階級別人口移動の推移（純移動数）

男女とも、中学から高校への進学時における社会減が多いことが分かる。

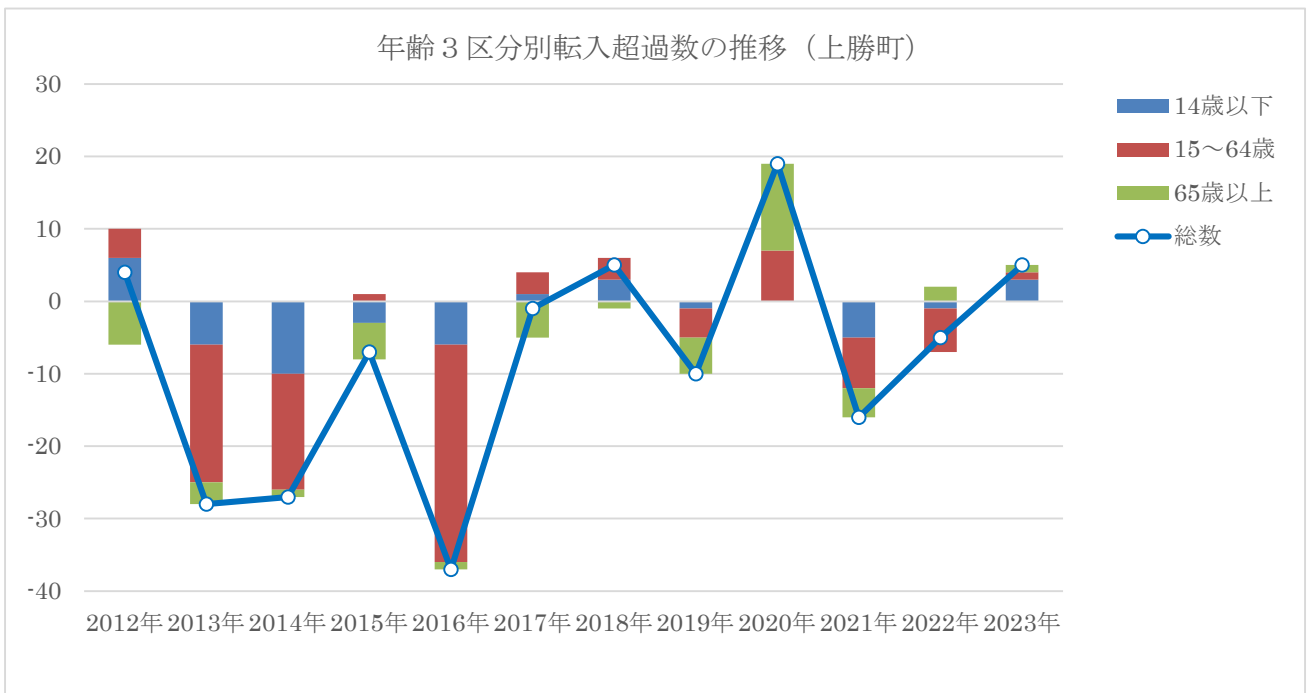


図7．年齢3区分別転入超過数の推移（上勝町）

資料：住民基本台帳の人口移動データに基づく特別集計表（内閣官房デジタル田園都市国家構想実現会議事務局作成）等により作成

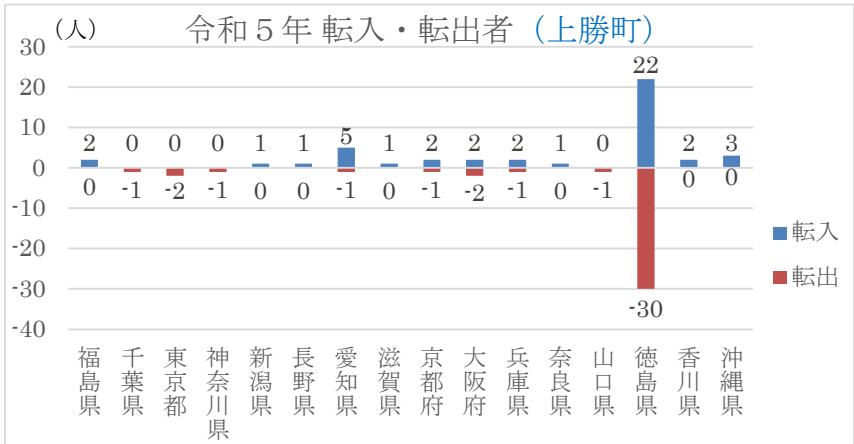
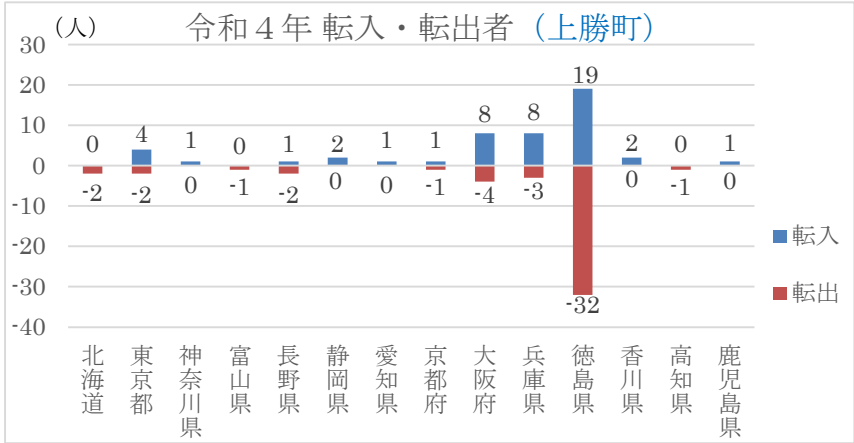


図8. 都道府県別転入・転出者数

(4) 人口減少の進行は、地域経済社会に甚大な影響を与え、町の存続にかかわる。

人口減少は農林業等の後継者不足を招き、高齢化の進展もあいまって、いわゆる限界集落が増加する。地域によっては日常の買い物や医療サービスなど住民生活や集落機能の維持に欠かせない社会・生活サービスをいかに確保していくかが重要な課題である。

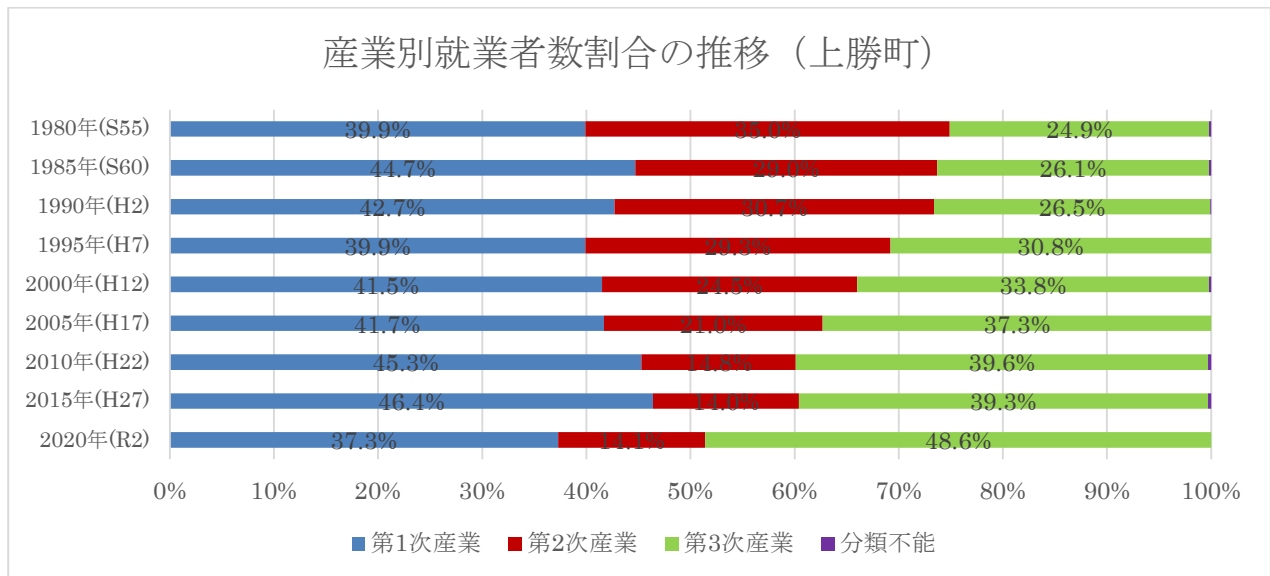


図9. 産業別就業者数割合の推移

## 企業数(企業単位) 2021年

指定地域：徳島県上勝町

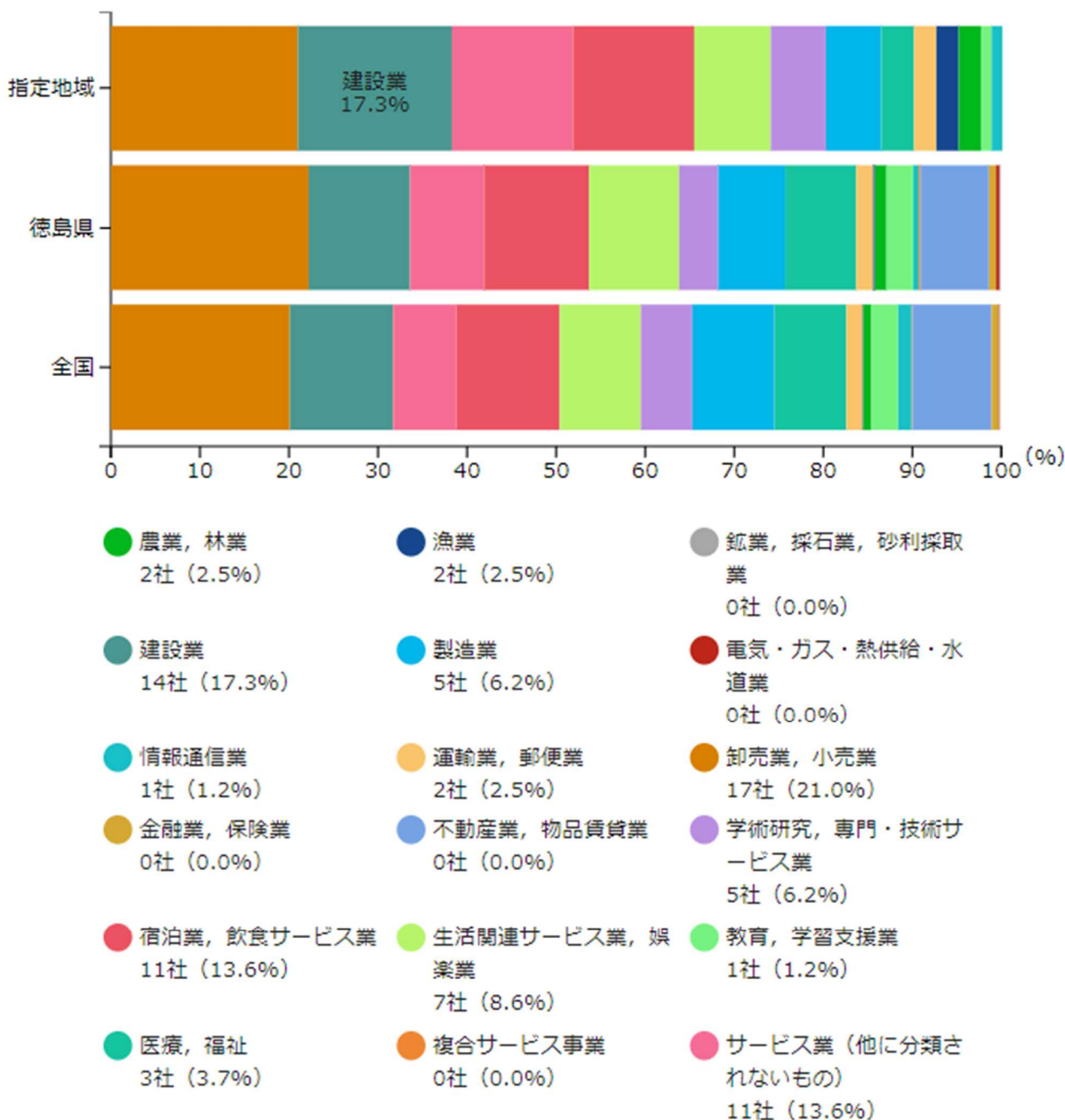


図10. 第2次産業・第3次産業／全産業の構造

【出典】RESAS地域経済分析システムより

総務省「経済センサス基礎調査」再編加工、総務省・経済産業省「経済センサス活動調査」再編加工

## II. 今後の基本的視点

### 1. 人口減少問題に取り組む積極的な姿勢

国の長期ビジョンが指摘・示唆するように、人口減少への認識を住民と共有しつつ、適格な施策を集中的かつ持続的に展開することで、人口減少を克服し、持続可能な魅力的な美しいまちづくりの実現を目指す。

その上で国、県、近隣自治体等をはじめ関係機関・企業等とともに力を合わせて、積極的かつ迅速に取り組みを進めていく。

### 2. 今後の基本的視点

#### (1) 4つの基本的視点からの取組み

人口減少への対応は、大きく2つの方向性が考えられる。

1つは、国の長期ビジョンが指摘するように、出生者数を増加させることで人口減少に歯止めをかけ、将来的に人口構造そのものを変えていく。

もう1つは、転入者の増加、転出者の抑制による社会増を拡大していくための「積極的戦略」を発展的・持続的に行う。

この2つの対応を同時並行的・相乗的に進めていくことが、人口減少の歯止めに大変重要となる。

この取組みにあたっての基本的視点は次の4点。

#### ① 若年層を中心とした人口流入の促進

本町の主産業である農林業の就業支援や、第三セクターの健全な経営、起業者の育成、地域おこし協力隊の活動、交流人口の持続的増大とU・I・Jターンの移住拡大等による若年層を中心とした人口流入の増加を図る。

#### ② 若者層の人口流出の抑制と歯止め

子どもの小中学校卒業・進学の日における世帯での転出や、就業による若年層の転出といった、人口流出の抑制と歯止めを行う。

#### ③ 若い世代のしごと・結婚・子育てなど、安心して暮らし続けられる環境整備の推進

人口減少を克服するため、若い世代が安心して働き、出会いや結婚・出産・子育てなど、安心して暮らし続けられる環境の充実を図り、出生率の向上を目指す。また、環境汚染の少ない自然豊かな生活環境の中で、子どもが安全で楽しく体を動かして遊ぶことができる遊び場の充実を図り、町内の子育て世帯や都市部からの子育て世帯にとって上勝町が魅力のある町となるような環境整備を推進する。また、町住民と移住者、移住希望者の交流を推進することにより、移住・定住の促進を図る。

#### ④ 超高齢化のまちで、元気な高齢者をはじめとした健康長寿の一層の推進

高齢者が健康であることが人口減少の抑制や介護、医療等の社会的負担の軽減、集落活動の維持と持続可能な魅力的な美しいまちづくりにつながる。

本町は百歳長寿に恵まれた地域であり、百歳になってもますます元気な健康長寿を推進し、介護、医療等の社会的負担の軽減と、壮年後期・高齢者層を中心とした一層の健康化により健康寿命の向上、地域経済力も含めた社会活力の増進を図る。

また、高齢者等が若い世代の子育てを支援することで子育て世帯の負担を軽減するとともに、高齢者等の知恵などを次代の子どもたちに伝える大切な一角を担うことで、高齢者等が健康で幸せな暮らしづくりを行う。

## (2) まち・ひと・しごとの創生と総合戦略

上勝町人口ビジョンに掲げる4つの基本的視点である本町の特色を活かした取り組みを進めながら、「しごと」が「ひと」を呼び、「ひと」が「しごと」を呼び込む好循環を確立することで、本町への新たな人の流れを生み出すこと、その好循環を支える「まち」に活力を取り戻し、住民が安心して生活を営み、子どもを産み育てられる環境をつくり出すことが急務である。

雇用を創出し、町へのU・I・Jターン等による定住・移住を加速させる、住宅環境等を充実させ、住民と移住者双方の支援策を整えていくことで、住民と移住者による住みよい持続可能な魅力的な美しいまちづくりを実現する。

そのうえで、人口減少対策を本格的に進めるため、上記(1)の4つの基本的視点の推進にあたって、多様な戦略的視点が非常に重要であり「地域再生計画」や、地方創生の柱となる各種制度の積極的な適用を可能な限り受け、地域間の活発な連携により、相互・相乗効果を活かした発展的で末永い展開を図る。

## Ⅲ. 目指すべき将来の方向性

令和2年に策定した長期的な人口ビジョンには、大きな変更はないと思われる。しかし、最新のデータに基づいた人口分析を行うこととされているため、令和2年度国勢調査や令和5年推計に置き換えて改訂を行うものである。加えて、平成27年に作成された将来推計人口との比較や、2040年の人口推計をパターン4つに分けて比較をした。

### 人口減少段階

人口減少は、次の3段階を経て進行するとされている。

- ※ 第1段階：老年人口の増加、年少人口及び生産年齢人口の減少
- ※ 第2段階：老年人口の維持・微減、年少人口及び生産年齢人口の減少
- ※ 第3段階：老年人口の減少、年少人口及び生産年齢人口の減少

### 上勝町の「人口減少段階」（社人研による推計人口）

（令和2年作成）

	2015年 (平成27年)	2040年 (令和22年)	2015年を100と した場合の 2040年指数	人口 減少 段階
老年人口	841	429	51	3
生産年齢人口	593	272	46	
年少人口	111	42	38	
総人口	1,545	743	48	

\*平成27年度国勢調査人口及び社人研推計(平成30年準拠)で示された2040年の推計人口

\*社人研とは、「国立社会保障・人口問題研究所」のことである。



（令和7年作成）

	2020年 (令和2年)	2040年 (令和22年)	2015年を100と した場合の 2040年指数	人口 減少 段階
老年人口 (65歳以上)	772	427	55	3
生産年齢人口 (15-64)	511	326	64	
年少人口(0-14)	97	76	78	
総人口	1,380	829	60	

\*令和2年度国勢調査人口及び社人研推計(令和5年準拠)で示された2040年の推計人口

\*社人研とは、「国立社会保障・人口問題研究所」のことである。

## 上勝町の将来推計人口

(令和2年作成)

	総人口	0～14歳人口		15～64歳人口	65歳以上人口	20～39歳女性人口
			うち0～4歳人口			
2015年	1,545	111	29	593	841	81
2040年	743	42	10	271	430	28

\*2015年人口は国勢調査。2040年人口は社人研推計（H30年）準拠



(令和7年作成)

	総人口	0～14歳人口		15～64歳人口	65歳以上人口	20～39歳女性人口
			うち0～4歳人口			
2020年	1,380	97	37	511	772	73
2040年	829	76	24	326	427	45

\*2020年人口は国勢調査。2040年人口は社人研推計（R5年）準拠（パターン1）



(令和7年) 2040年推計人口

	総人口	0～14歳人口		15～64歳人口	65歳以上人口	20～39歳女性人口
			うち0～4歳人口			
パターン1	829	76	24	326	427	45
パターン2	816	79	27	351	386	59
パターン3	1,001	128	41	488	386	85

\*パターン1人口は、社人研推計（R5年）準拠

\*パターン2人口は、社人研推計（R5年）準拠をベースに人口移動が均衡した場合（転入と転出が同数となり異動がゼロとなった場合）

\*パターン3人口は、総人口1,000人を目指すため、パターン2推計人口に、人口移動が、2020年から2040年にかけて年間8人社会増となったと仮定した場合。（年齢割合は子育て世帯（25～44歳の男女、0～14歳の男女）が転入したと仮定、転出者数は0とする。）

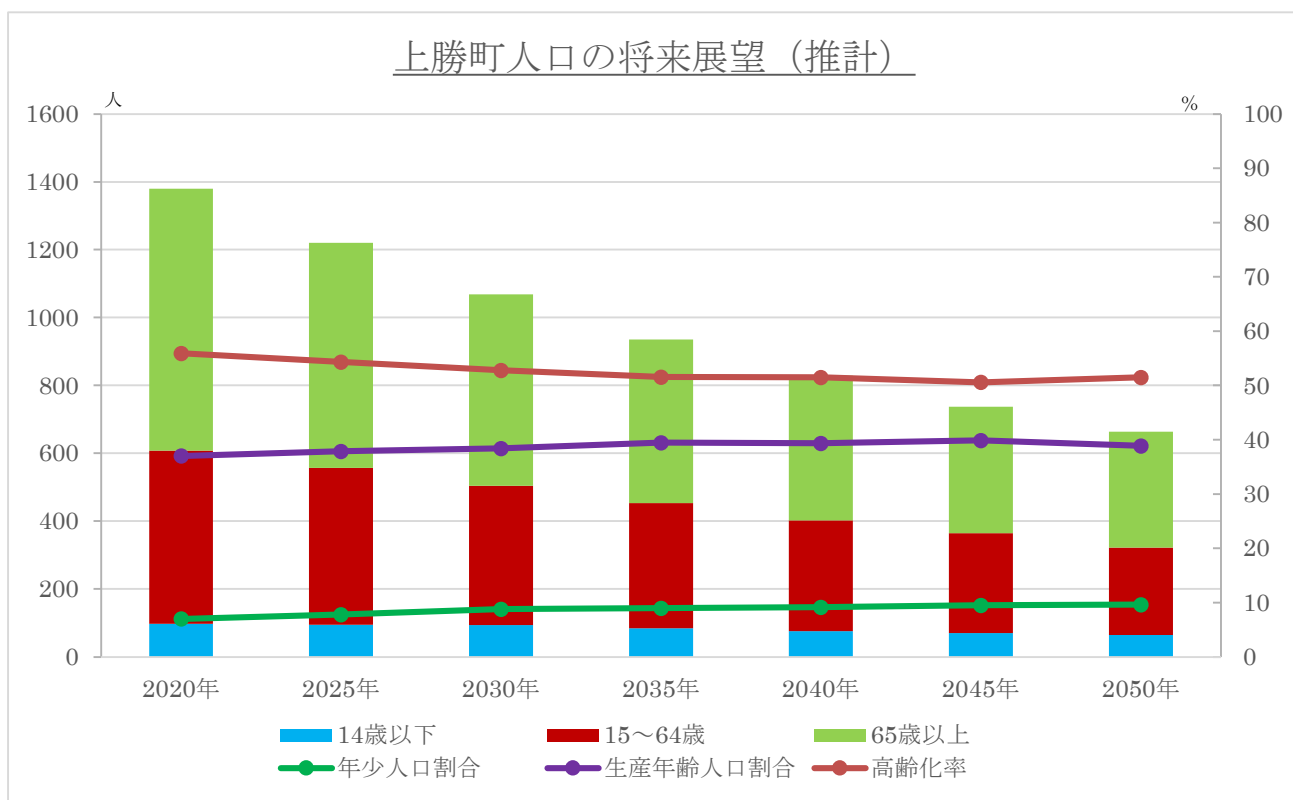


図 1 1. 総人口及び年齢 3 区分別人口の推計結果

資料：国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口（令和 5（2023）年推計）」により作成

総人口及び年齢 3 区分別人口の推計結果（上勝町）

	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年	2045年	2050年
総人口	1380	1220	1068	935	829	737	664
14歳以下	97	95	94	84	76	70	64
15～64歳	511	462	410	369	326	294	258
65歳以上	772	663	564	482	427	373	342
年少人口割合	7.0	7.8	8.8	9.0	9.2	9.5	9.6
生産年齢人口割合	37.0	37.9	38.4	39.5	39.3	39.9	38.9
高齢化率	55.9	54.3	52.8	51.6	51.5	50.6	51.5



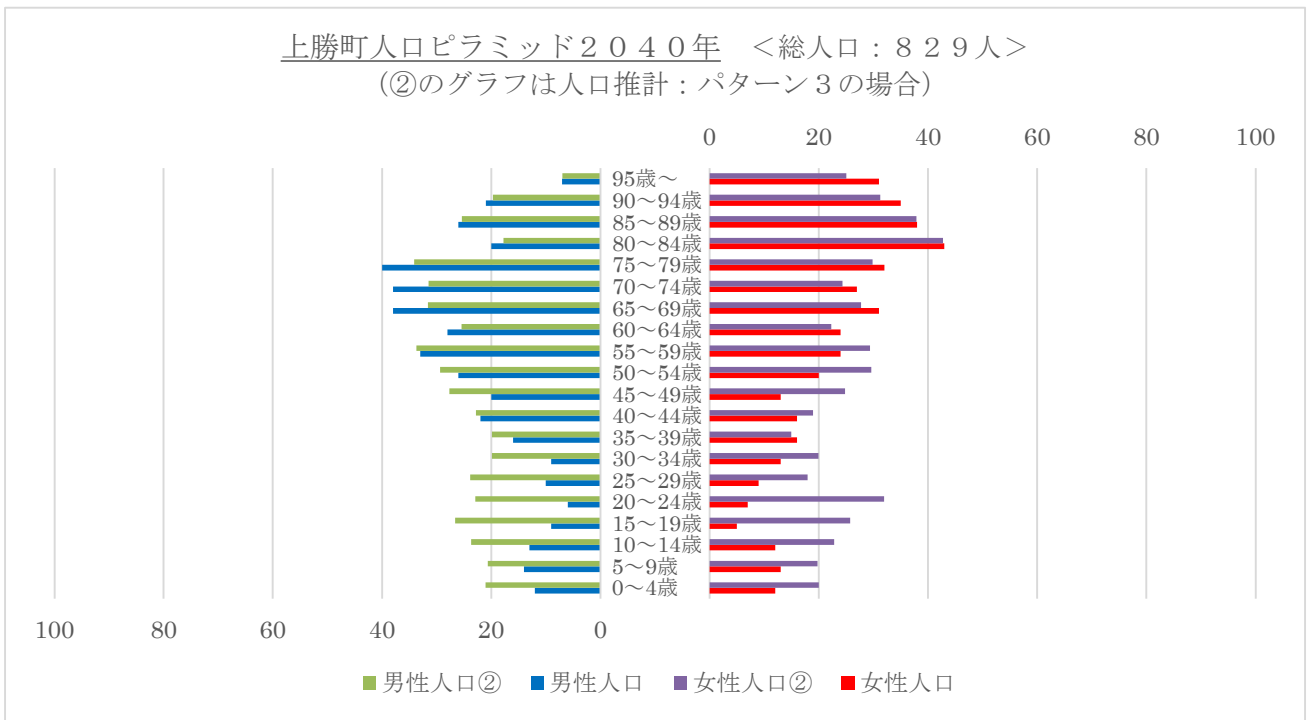
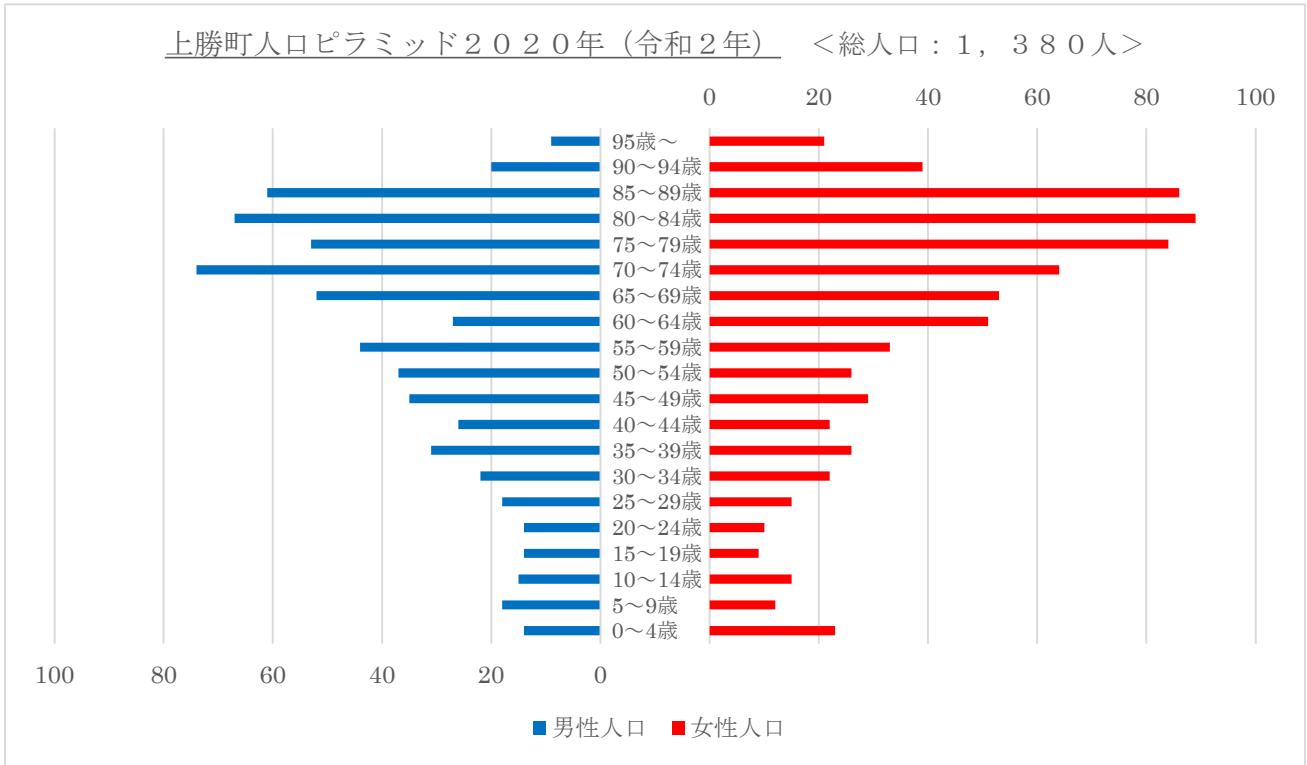


図1 2. 男女、年齢5歳階級別人口の推計結果  
 資料：国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口（令和5（2023）年推計）」により作成。

## 1. いっきゅうと彩の里・かみかつ

### 【町の将来像】

- ☆ 若者が住みたくくなるような魅力ある町 《人口定住》
- ☆ 循環型社会をリードする町 《自然共生》
- ☆ 地域経済の活性化が図れる町 《経済・雇用》

(以上「第4次上勝町活性化振興計画」より)

## 2. 2040年に「1,000人」の人口確保を目指す

持続可能な暮らしやすい魅力的な地域づくりに取り組み、住民・企業（民間団体）・行政が連携し集中的・重点的に進めることで、2040年に「1,000人」程度の人口を確保する。

(1) 転入を増やし転出を減らす「社会増」を進める。

社人研推計人口では、2040年の総人口は「829」人と見込まれているが、まさに「しごと」をつくり、仕事をもった若者や子育て世帯を呼び寄せる施策等により、令和2年策定時と同様に、2040年に「1,000人」の人口を目標とする。そのためには、町のブランドである「いろどり」「ゼロ・ウェイスト」「教育」の、3つの戦略を継続して取り組み、これらを最大限に活かし、安心安全な暮らしやすい魅力的な地域づくりの実現を目指す。

## 人口減少のスピードに歯止めをかけ

## 2040年に「1,000人」の確保を目指す

町の人口の現状と今後の見通しは非常に厳しい。しかし、安心安全な暮らしやすい魅力のある美しいまち上勝町を次世代の若者や子どもたちにつなげ、持続可能な地域社会を築くため、住民・企業（民間団体）・行政が連携し、次の4つの基本的視点の取組みをさらに強化し継続して進めていく。

- ① 若年層を中心とした人口流入の促進
- ② 若者層の人口流出の抑制・歯止め
- ③ 若い世代のしごと・結婚・子育てなど安心して暮らし続けられる環境整備の推進
- ④ 超高齢化のまちで、元気な高齢者をはじめとした健康長寿の一層の推進

日本の超高齢化をリードする小さな町の挑戦。地方から課題解決・推進へと率先してチャレンジする。

2015年（平成27年）9月「上勝町地域創生人口ビジョン」策定  
2020年（令和2年）4月「上勝町地域創生人口ビジョン」改定  
2025年（令和7年）4月「上勝町地域創生人口ビジョン」改定  
発刊 徳島県上勝町